

不安の時節 菊池寛奮闘

文人の
武蔵野

菊池寛(1888~1948年)は1935年、親しくしていた故芥川龍之介と直木三十五を記念して、芥川賞と直木賞を創設します。賞を主催する日本文学振興会も、受賞作を掲載する「文藝春秋」も、その発行主体の文芸春秋社も、創設者は菊池でした。誰にも気兼ねせずに書ける場を作るため、23年1月に菊池がポケットマネーで創刊した月刊誌が「文藝春秋」です。

東京行進曲 ②



菊池寛の旧宅跡に設置された碑(豊島区雑司が谷)

寄稿したのは、芥川、川端康成、横光利一をはじめとする菊池人脈でした。同年9月に関東大震災に遭い駒込の借家を追われ、親友芥川の助けで市外の田端に避難。3か月後にはさらに郊外の武蔵野たる雑司が谷の借家に移り、拠点とします。夏目漱石も眠る当時の雑司が谷は、交通の便の

悪い市外でしたが、菊池家には連日多くの人たちが通いました。

菊池が「キング」に「東京行進曲」の連載を開始した28年は、震災や芥川の自殺を経てなお増す不安と不景気の時節でした。すでに「父帰る」(戯曲)や「恩讐の彼方に」(戯曲)や「恩讐の彼方に」(戯曲)や「恩讐の彼方に」(戯曲)などの

代表作を持ち、純文学と大衆文学の双方に地盤を築いていた菊池は、課題解決型の明快な物語を描いて人々を励まそうと努めます。既成文壇人の枠を超えたその器の大きさが、今日の文芸春秋社の独特の存在感も生んだのだと言えそうです。

実作では時代小説でしか武蔵野を描かなかった菊池ですが、34年には、孫の夏樹氏に「武蔵野の味を残すちよっと

遠い所」と語ったという上石神井に洋館の「別荘」を建てます(跡地は現在練馬区扇山公園)。雑司が谷で応接に忙しい妻が疲れた時に羽を伸ばして休息できるようにと考えたプレゼントだったようです。

(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)



(片山宏行代表編集、八木書店)

菊池寛現代通俗小説事典

おすすめの1冊

「菊池寛現代通俗小説事典」

菊池寛については、松本清張、杉森久英、井上ひさし、猪瀬直樹、菊池夏樹による評伝があり、小林和子や志村三代子の研究書があります。コロナ禍を意識して編まれた短編集「マスク」もあり、どれも面白いのですが、ここでは「東京行進曲」の詳しい解説もある事典をおすすめします。

武蔵野

本社 江東
立川 武蔵野

武蔵野支局 〒180-0006
武蔵野市中町1の13の1 3F
電話 0422(51)3131
FAX 0422(51)3133
musasino@yomiuri.com
都内版編集室
電話03(3217)1465・1466
江東支局 電話03(3631)6116
立川支局 電話042(523)4477
ホームページ
www.yomiuri.co.jp/local/

購読は
0120-4343-81

【広告】読売Palette
03(6272)9027
【折込チラシ】 0120-03-4343
【読売旅行】 03(5550)0666

5月14日(金曜日)
旧 4月3日<赤口>

あすの暦

通日 134
月齢 2.3
(正午)
日出 4.37
日入 18.38
月出 6.03
月入 20.56
満潮 5.28
干潮 0.06
(大潮)



東京標準
満潮 5.28
干潮 0.06
(大潮)